

廃校利活用で地域元気に

近年、少子化などの影響により、全国で毎年約300校以上の公立学校が廃校となっている。

学校は地域の中心地にあることが多いため、廃校となった校舎を地域活性化の拠点として有効に活用している事例が多くみられる。

県外では、小学校の教室を家族・単身向けの住居に改修し、定住を促進したり、民間企業が学校のグラウンド・校舎を物流拠点として活用し、地域の雇用を創出したりするなど、多様な形態で地域経済の再生が図られている。

県内に目を向けると、いなべ市では、地域住民が小学校の校舎を活用してカフェを運営したり、体育館にクライミングウォールやトランポリンなどを設置したりして、大人から子どもまで遊べる場を提供している。

また四日市市では、小学校を音楽・ダンス・バレエや陶芸などができる文化会館に転用。多様な生涯学習活動の場となっている。

県内各地では、今後も公立学校の統廃合が計画されている。役割を終えた校舎を、地域の実情やニーズに応じた施設に再生できれば、新たなにぎわい創出や地域活性化が期待できる。

思い出の詰まった学校が、地域の財産として、長く利活用されることを望みたい。

(コンサルティング事業部 PPP/PFI グループ 主任研究員 小林 靖司)